

寄稿者一覧

■ハルク・ソイダン

南カリフォルニア大学ソーシャル・ワーク学院研究教授・研究担当副学部長であり、ハモヴィッチ対人援助科学センター長を兼任。スウェーデンで長らくソーシャル・ワークの研究に従事された後、米国に拠点を移され研究を進めている。

スウェーデンでは、ヨーテボリ大学、ストックホルム大学、エレブル大学教授などを歴任され、スウェーデン健康福祉庁「エビデンスに基づくソーシャル・ワーク研究機構」の研究統括者を長年務められ、現在もシニア・アドバイザーを担当。

南カリフォルニア大学ソーシャル・ワーク学院には、2004年に着任され、ソーシャル・ワーク研究の方法論、特にエビデンスにもとづく実践（evidence-based practice）について研究を進めてこられた。対人支援領域でのエビデンス集積を行う国際的取り組みであるキャンベル共同計画の創設者の一人でもある。著書に、*History of Ideas in Social Work* (Birmingham: Venture, 1999)、*Translation and Implementation of Evidence-based Practice* (with Lawrence A. Palinkas) (New York: Oxford University Press, 2012) など多数。

■松田 亮三（まつだ りょうぞう）

専門は先進国の比較医療政策。1988年京都大学医学部卒業後、奈良県立医科大学を経て、2003年より立命館大学に着任。2007年ロンドン大学政治経済学院医療研究所（LSEHealth）にて客員研究員。医療経済学会、日本保健医療社会学会、社会政策学会、国際政治学会等に所属。

『健康と医療の公平に挑む—国際的展開と英米の比較政策分析』（編著、勁草書房）など、著作物多数。詳細は、個人ウェブ（<http://bit.ly/ihpowiki>）を参照。

■稲葉 光行（いなば みつゆき）

専門は情報学・学習科学。1997年ハワイ大学大学院情報・計算機科学専攻修了。富士通株式会社、ハワイ大学ソフトウェア工学研究所を経て、2008年より立命館大学政策科学部教授。2005年カリフォルニア大学サンディエゴ校比較人間認

知研究所 (LCHC) にて客員研究員。人工知能学会、情報処理学会、ACM、ADHO 等に所属。

『デジタル・ヒューマニティーズ研究とWeb技術』(編著、ナカニシヤ出版) など、著作物多数。詳細は、個人ウェブ (<http://www.inabam.com/>) を参照。

■土田 宣明 (つちだ のりあき)

専門は発達心理学、特に老化に伴う機能低下の問題を検討。立命館大学大学院文学研究科修了。その後大阪大学大学院を経て、2006年より現職。日本発達心理学会、日本老年行動科学会等に所属。

主たる著作としては Motor Inhibition in Aging: Impacts of Response Type and Auditory Stimulus, Journal of Motor behavior, 45, 343-350 (2013) などがある。

■谷 晋二 (たに しんじ)

専門は発達障がいのある子どもとその家族への支援。1982年大阪教育大学大学院修士課程修了。1998年筑波大学で心身障害学博士を取得。2002年より大阪人間科学大学を経て、2010年より立命館大学に着任。日本認知・行動療法学会、日本行動分析学会、Association for Contextual Behavioral Science, Association for Behavior Analysis International に所属。日本認知・行動療法学会常任理事、行動療法研究副編集委員長。

著書に『はじめはみんな話せない』(金剛出版) など。

■中村 正 (なかむら ただし)

専門は社会臨床論、社会病理学、臨床社会学。1989年に立命館大学産業社会学部に着任。

2001年度より立命館大学大学院応用人間科学研究科にも所属。1994-95年にカリフォルニア大学バークレー校、2003-04年にシドニー大学にて客員研究員。日本社会学会、社会病理学会、犯罪社会学会、更生保護学会等に所属。

『ドメスティックバイオレンスと家族の病理』(作品社)、『家族の暴力を乗り越える』(かがわ出版)、『対人援助学の到達点』(晃洋書房)、『対人援助学の可能性』(福村出版) 等、著作物多数。

「社会臨床の視界」「臨床社会学の方法」を『対人援助学マガジン』(対人援

助学会)にて連載中。詳細は<http://humanservices.jp/magazine/index.html>を参照。

■小泉 義之 (こいずみ よしゆき)

専門は哲学・倫理学。1988年東京大学大学院退学後、宇都宮大学を経て、2002年より立命館大学に着任。日本哲学会、日本倫理学会、日仏哲学会などに所属。

著書に、『兵士デカルト』(1995年)、『生殖の哲学』(2003年)、『生と病の哲学』(2012年)など。詳細は、個人ホームページ (<http://www.r-gscefs.jp/?p=303>)参照。